【別紙１】

小笠原村立母島小学校令和５年度授業改善推進プラン

小笠原村立母島小学校
校長　　井口　寛隆

（１）令和４年度の取り組み状況に関する総括

①　令和５年度村学力調査の結果より

各教科において以下の課題が見られた。

国語

２～４年生の正答率の値が全国平均を下回っている。その中でも，４年生が全国水準を大きく下回っている。全体的に「書くこと」の領域の正答率が低い。特に，４年生，６年生は，「書くこと」の領域の正答率が標準得点と比べると大きく下回っている。無回答や回答が途中で終わっている児童が多く，テストの時間配分や集中力が要因である可能性が高い。一方で，他教科においても短文で答えるような記述式問題の正答率は，顕著に低い傾向がある。「書くこと」については全学年における喫緊の課題であると言える。

社会

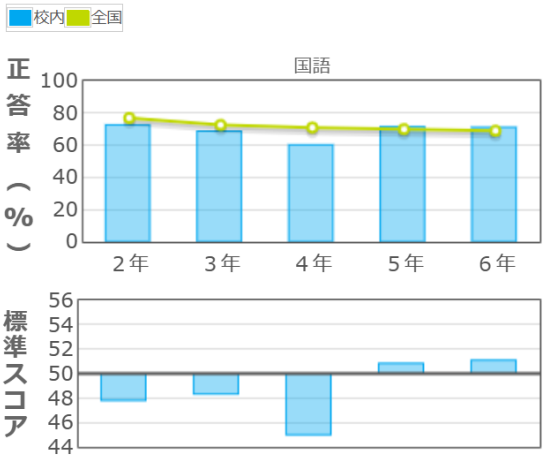
学年が上がるにつれ正答率が上がっていく傾向にある。しかし，基礎的な知識を問う問題やデータを読み取る問題での正答率が低い。また，小学校４年生は「市の様子のうつり変わり」の問題で大きく点を落としている。これは地域的な事情によるところも大きいと言える。

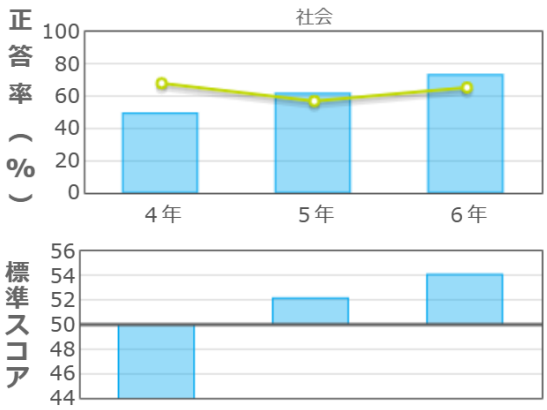
算数

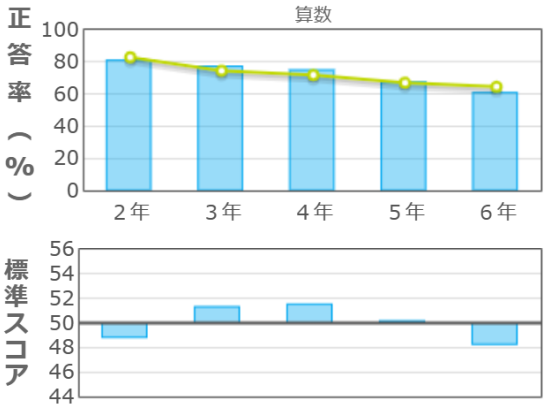
全国と比べると平均よりやや高い傾向にあるが，２年生と６年生は全国平均より下回っている。２年生と６年生は他学年と比べ，領域に関わらず基礎的・基本的な学習内容の定着が不十分である傾向が見られる。全体として，児童数が少ないので一概には言えないが，個々の児童の正答率の差が非常に大きいことも課題であると言える。どの学年においても，記述式問題で無回答，あるいは不正解の児童が一定数いる。

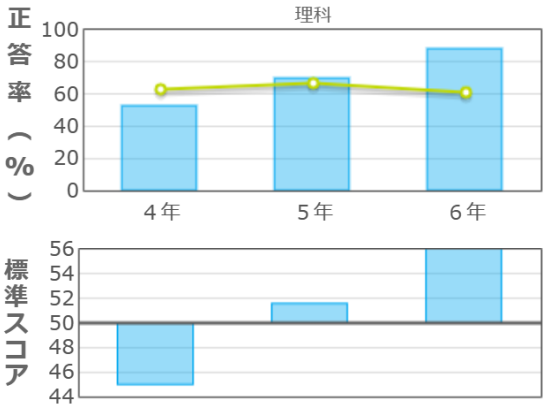
理科

高学年では全国水準より正答率がやや高い傾向にある。理科専科による丁寧な指導が学習内容の着実な定着につながっていると捉えることができる。４年生は「電気の通り道」の正答率が低い。今後も全体としてのスコアを維持するためにも継続的な支援が必要である。本校は，物質・エネルギーの領域の得点を落としがちであるという傾向もあり，注視したうえで指導に当たる必要がある。









以上の各教科の概観から，どの教科においても以下の３点が本校児童の課題であると考えられる。

・題意を読み取る力
・自分の考えや思いを書いて表す力
・基礎的・基本的な知識の確実な定着

② 令和５年度村学力調査における生活行動調査の結果より

「朝食をきちんと食べている」「夕食をきちんと食べている」「朝は，時刻を決めて起きている」「夜は，時刻を決めて寝ている」といった，基本的な生活習慣を守ることはおおむねできている。

一方で，地域的環境による学習習慣の定着の難しさが，昨年度に引き続き見られた。「本（マンガや雑誌をふくまない）を読んでいる」「勉強に図書館を利用している」「参考書や問題集などを使って，勉強している」「通信添削を利用して，勉強している」「家庭教師に来てもらって，勉強している」「学習塾に行って，勉強している」という質問項目において，どの学年でも否定的な回答が多く見られた。

（２）授業改善のための取組について

小笠原村教育委員会教育目標実現のための授業改善に関する取組の重点

○　授業ＵＤの徹底

➡「わかる」から「できる」を**体感する授業**の推進

①　課題の要因

（１）で挙げた課題の要因としては，以下の２点が考えられる。

・島しょという地域的環境による学習習慣の定着の難しさ

・読書習慣の希薄さ

学習習慣の定着の難しさについては，学習環境や学習用具の不十分さに起因するところが大きい。今後，さらに学校からの支援・指導を充実させ，家庭での学習習慣が定着するような手だてを講じる必要がある。

また，読書習慣についても，児童が落ち着いて読書に取り組める環境づくりや様々な本に触れられる機会の提供を，学校が主導して行っていくことが重要であると考えられる。

②　学校全体で取り組む事項

・学習指導の充実を図るための方策

【授業ＵＤ】

全ての児童にとって「わかる」から「できる」授業を実施するために，ＩＣＴを積極的に活用し，視覚的に分かりやすい授業を構成するようする。また，児童の身近な興味や関心に訴えかけるような学習課題を設定し，児童が意欲的に学習に取り組めるようにするとともに，それらを家庭学習や家庭での話題に還元することができるようにする。

教室は整理整頓を徹底し，黒板横の掲示板には必要最低限のものを掲示することで，児童の集中を削がないようにする。

【家庭学習の内容】

児童が意欲的に取り組むことができる家庭学習の内容を設定する。また，国語科における新出漢字，算数科における計算の技能などが確実に定着するよう，基礎的・基本的な内容の家庭学習を繰り返し行えるようにする。

【朝読書の時間の設定】

ベーシックタイムや朝会・集会の時間以外の朝の時間は朝読書を実施している。各学級で，児童一人一人が落ち着いて読書をする時間を確保する。朝読書を通して家庭での読書時間につなげ，ひいては一人で学習に取り組む時間の確保につなげていく。

【学習支援の教員の配置】

算数の学習を中心に，支援の必要な学習単元や学級には，Ｔ２として学習支援の教員を配置している。組織的に配置することにより，学力向上につなげるとともに，児童の実態を組織的に把握することにつなげていく。

・「指導と評価の一体化」の実現を図るための方策

【振り返りの指導】

毎回の授業で，学習内容を振り返る時間を設定する。また，単元テストの振り返り活動を通して，各単元の学習内容を着実に定着できるようにする。振り返りから学習の理解度などの児童の実態を把握し，次の指導へと生かしていく。

【ベーシックタイムの実施】

８：00～８：10 の 10 分間，主に水曜日と金曜日に実施している。児童の実態に合わせて各担任が課題を設定し，問題演習などに取り組ませる。

・義務教育９年間の学びの連続性を意識した小中一貫教育推進のための方策

【校内研究の取組み】

母島小中学校では，小中合同で校内研究に取り組んでいる。今年度も昨年度，一昨年度に引き続き「基礎学力向上のための，少人数指導の工夫」を研究主題に設定している。少人数である母島の特色を生かした指導を行い，課題を解決するための基礎的・基本的な知識及び技能を伸ばし，学力向上につなげていく。

【ホワイトボードやタイマーの活用】

各教室にホワイトボードを 10 枚，タイマーを１台用意している。ホワイトボードを使用し各授業で発表活動を多くすることにより，説明する力や表現する力の向上を目指している。また，タイマーで時間を示した指導を行うことで，児童が見通しをもって活動に取り組めるようにする。

【ＧＩＧＡスクール構想，ＩＣＴ端末の活用】

母島小中学校では，小中で同じタブレット端末を使用している。小学校の段階から，学習ソフト（ミライシード）やクラウド型教育ツール（Ｇｏｏｇｌｅ　ｆｏｒ　Ｅｄｕｃａｔｉｏｎ）を活用することで，個別最適な学びや協働的な学びにつなげられるようにしている。